

「指紋と犯罪捜査 ～日本での歴史を辿る～」

演題

犯罪捜査で重要な証拠となる指紋。

DNA 鑑定が主要な個人特定の決め手となっている昨今であるが、
今でも指紋は重要な証拠として命脈を保っている。

指紋を個人特定の証拠として確かめたのは、明治初期に来日した
英国人医師のヘンリー・フォールズである。

フォールズは築地の居留地で開業しながら、

指紋の採集と研究を続け、「人はすべて独自の指紋を有している」という
指紋の特異な性質を見出した。

フォールズが明治の日本でどのように指紋の存在に気づいたか、

また、その研究がどのように日本の犯罪捜査に影響を与えたのか、

拙書「指の紋章」を背景に、指紋と犯罪捜査の歴史を見つめてみたい。

(講演要旨)

○指紋が一致し、犯人逮捕

昨年 (2013) 6 月の新聞報道

14 年前に起きた殺人事件の犯人が逮捕される。

現場に残された指紋が千葉県内に住む 60 歳の男のものと一致。

男は共犯者とともに犯行に関与したことを自供。

今もなお、指紋は有力な捜査の武器

○指紋鑑定の発祥地は築地居留地

築地明石町聖路加病院近くにある
築地明石町に残る「指紋研究発祥の地」の記念碑
英国人医師ヘンリー・フォールズの研究成果を顕彰する警察協会が建立。

ヘンリー・フォールズ（1843－1930）は
明治7年（1874）に来日、キリスト教の布教とともに病院を開く。
診療の傍ら、日本人の指紋を採取。すべてが異なることを発見。
明治19年（1886）離日。
その間の明治13年（1880）、指紋で個人の特定できることを論文として初めて発表。

○築地居留地とは

明治元年11月に設立。
居留地は神戸、横浜など6箇所。
開港地ではなく、外国人が居住し貿易を行う場所。
明治3年に52区画を競売、外国人が購入居留した。

○外国公館と宗教の町

アメリカ公使館が麻布から移転。
ペルー、オーストリア、フランスなど9か国の公使館。
次いで、明治6年のキリスト教解禁とともに
各派キリスト教の宣教師館が建設される。
約75パーセントの土地が宣教師館と教会が占める。
また、慶應義塾大学、明治学院大学、女子学院、青山学院大学、
立教大学、立教女子大学、雙葉学園、暁星学園、関東学院大学、
女子聖学院、工学院大学の前身校が開没された。
その町の成り立ちの中で、ヘンリー・フォールズは
スコットランド一致長老教会の宣教師および医師として来日した。

フォールズは外科と眼科の医師として治療にあたる。
年間1400人以上の患者を診療。

○土器に残る指紋と証文の拇印

フォールズはアメリカから来日した動物学者モースが大森の貝塚を調査した結果採集した土器を東京大学で見る。

土器に残る指の跡に注目、さらに日本人が名前とともに証文に拇印を押すことに興味を抱き、指紋収集を開始する。

指紋の固有性に気づく。

病院内のアルコールを盗み飲んだ助手を残された指紋から摘発。

以後、帰国するまで指紋の採取と分類に没頭する。

「ネイチャー」誌に発表されたフォールズの論文は

世界で初の指紋分類に関する学術的成果。

イギリスに帰国後も開業医をしながら指紋研究を継続。

昭和5年（1930）、87歳で死去。

フォールズは外科と眼科の医師として治療にあたる。

年間1400人以上の患者の手術を実施。

○指紋の分類

渦巻紋

渦状の指紋で日本人の5割

蹄状紋

動物の蹄の形をした指紋。日本人の4割

弓状紋

弓の形。日本人には珍しい指紋で約1割

他に変形紋がある。

さらに、指紋の特徴点を7箇所特定し、個別の鑑定に応用する。

○ 日本の警察と指紋
江戸時代の自白偏重主義の弊害

明治 13 年 (1880)

初めての近代的刑法である治罪法が刑法とともに公布。

明治 15 年 施行

「物証なくして犯罪なし・・・」

裁判の公開と代書人（現在の弁護士）の出廷が義務付けられる。

警察の捜査にも影響。

自白だけでは公判が維持できない。

警察と検査官に迫られた物証。

指紋の有効性。

すでに欧米では、捜査に実用化されていた。

明治 38 年 (1905)

平沼騏一郎（司法省民刑局長）と

大場茂馬（しげば）（東京地方裁判所検事局）が

欧米で指紋の捜査に応用できないか研究する。

それは、再犯者に対する累犯加重制度の確立のためであった。

以後、逮捕者からの指紋採取が開始される。

明治 44 年 (1911) 4 月

亀井英三郎（警視総監）が 4 月 1 日に

刑事課を設置し、さらに指紋係を置いて捜査体制を整備。

同年 4 月 6 日、神田錦町で発生した強盗殺人事件。

現場に残された指紋から、同年 8 月に犯人が逮捕される。

以後、指紋採取と指紋照合による犯罪捜査が進む。

(以上)

14年前殺人の疑い

東京・足立 指紋一致、60歳逮捕

1999年5月、東京都足立区のアパートで男性（当時63）が殺害された事件で、警視庁は8日、住所不定、土木作業員中窪信雄

トで住人の会社員武田鎮雄さんの腹を刃物で刺すなどして殺害した疑いがある。

容疑者（60）を殺人容疑で逮捕し、発表した。男性の貯金が引き出された際に付着した指紋と、中窪容疑者の指紋が一致したことから関与の疑いが浮上した。

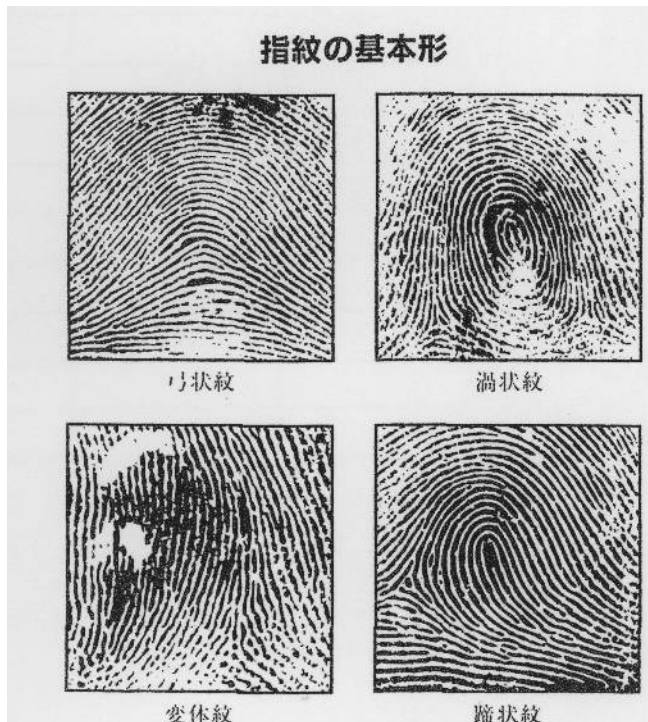
捜査関係者によると、中窪容疑者は今年2月、千葉県内で暴行騒ぎを起こし、その際、千葉県警が任意で指紋を採取。この指紋が、殺害翌日に東京都台東区内の郵便局で武田さんの貯金59万円が引き出された際、引き出した人物が記入した書類に残っていた指紋と一致したという。

中窪容疑者は容疑を認め、「生活費欲しさに、共犯者の男に誘われてやった。被害者と面識はない」と供述しているといい、警視庁はこの男の行方を捜している。

警視庁は8日、千葉県内の勤務先から中窪容疑者を任意同行した。事件後の14年間、中窪容疑者は関東地方で且雇いの仕事などをしてきたという。

捜査1課によると、中窪容疑者は99年5月5日夜、足立区小台2丁目のアパ

(朝日新聞朝刊)



(塚本字真著「指紋は語る」(PHP 研究所))

一紅会・歴史研究同好会・渡辺房男先生を囲んで第17回出席者名簿(敬称略)

～指紋と犯罪捜査～日本の歴史を辿る～

開催日 平成26年10月26日(日)午後1時30分～3時30分

受付開始1:00～

場 所 ベルモントホテル

会 費 1,000円

NO	卒業年次	お名前	NO	卒業年次・	お名前
1	S30年	荒谷良雄	26	S38年	鈴木紀子
2		神田四郎	27	S39年	斉藤美都子
3		神田信子	28	S40年	藤巻芳彦
4		神宮司房義	29		宇野由美子
5		遠藤政子	30		深澤保子
6		近藤文子	31	S41年	山本秀彦
7		呉藤勢津子	32	S44年	峯川文江
8		塩瀬昭子	33	S46年	山下恵子
9		轟 佐知子	34	S52年	飯野正仁
10	S32年	雨宮 武	35		佐藤 守
11		若尾和子	36		伊藤由佳美
12	S33年	五味一彦	37		塚田 薫
13		樋川紘一	38		中山初美
14		飯田富美子	39		吉川文代
15		斉藤由美子	40	S59年	三井田ひろみ
16	S35年	作道 恒	41		清水容子
17	S36年	田村久夫	42		折口有里子
18		塚越 洋	43		井上君子
19		谷口百合子	44	S32年	田中博久
20	S37年	黒田順子	45	S35年	小笠原紘子
21	S38年	雨宮武士			
22		一瀬 明			
23		長沼 真			
24		新海行子			
25		梅澤梅子			